

新座市指定管理者制度導入施設管理状況評価シート（令和6年度分）

【施設の概要】（所管部記入）

施設名	新座市福祉の里図書館及び新座市立中央図書館分館		
所在地	埼玉県新座市新塚1丁目4-5 福祉の里4階ほか	所管部署	新座市立中央図書館
制度導入年度	令和元年度		選定方法 ☐ 公募 / ☒ 指名
指定管理者	名称	株式会社図書館流通センター	所在地 東京都文京区大塚3-1-1
	指定期間	令和4年4月1日～令和9年3月31日（5年間）	

【事業概要】（指定管理者記入）

事業概要	新座市の図書館設置目的と弊社の図書館運営理念とを融合させた図書館運営をめざします。図書館運営を行うにあたっては、関係法令および諸規定を順守し、個人情報保護や危機管理対策、著作権法等、図書館運営における重要な課題となる事柄を全スタッフが学び、実践いたします。また、スタッフの技術および知識の向上を図り、適切な管理運営とサービス提供を行います。さらに地域との連携を図りながら、図書館活動を展開させていきます。
特筆事項	※ 運営において創意工夫した点や指定管理者の提案による新たな取組等を記載 福祉の里図書館は、乳幼児から高齢者まで、市民の福祉やコミュニティ活動の中心となる福祉と教育の総合施設である福祉の里の中に設置されており、児童並びに高齢者を中心に、すべての世代をターゲットとしたサービスに努めてきました。これを実現するにあたり、利用者サービスの充実を目標に掲げ、日々改善・改革を実行し魅力ある図書館運営に向けスタッフ一丸となって事業を遂行してまいりました。 自主事業においては初の試みとして、福祉の里1階喫茶ココとのコラボ事業「あおぞらおはなし会」を開催し、参加者の皆さんとハロウィンを満喫しながら物語を堪能することができました。 他にも埼玉県立新座高等学校の生徒さんが図書館所蔵資料を参考に作成した修学旅行先の飛び出しおりと参考にした資料との共同展示会を開催することができました。また後進育成の観点から、司書資格を目指す大学生をインターンシップとして受け入れ、当館の日常業務をとおして図書館業務の基本を習得していただきました。 中央公民館図書室主催のイベントとして「モバイルを作ろう」を初開催。ブックトークを楽しんでいただき、モバイル作りをとおして工作本の活用方法を紹介することができました。 また子どもたちへ本を届ける事業として、新座団地図書室でのおはなし会をスタートさせることもできました。 講座等では、昨年度事業のステップアップとして「はじめての読み聞かせ講座 中級編」を開催。毎年好評をいただいている「ハーブで絵本の世界へ」、「人形劇」等も満員での開催となりました。 幼児・児童向けに、ちいさなおはなしの時間スペシャルを開催し、季節感のある絵本を参加者一体となって楽しむ時間を過ごしていただきました。 絵本の世界を楽しむアニメーションの一環として絵本に出てくる動物になりきって物語を体感する「なりきりおはなし会」では、目や耳で楽しむことにプラスして演じて感じるおはなし会を楽しんでいただくことができました。 地域連携では、昨年度に引き続き埼玉県立新座総合技術高等学校の生徒さんが作成したPOPと図書館所蔵資料の共同展示会を開催し、多くの利用者の方に資料を手にとっていただけました。 施設の特徴を生かした事業として、多世代交流型イベント「あなたの知らないボードゲームの世界」を開催。子どもから高齢者まで幅広い年齢層が真剣勝負を繰り広げる時間を満喫していただきました。

【総合評価】

指定管理者の自己評価			
総合評価	S ☐	優良	項目別評価総括が全てA以上であり、Sが二つ以上である。
	A ☒	適正	項目別評価総括が全てA以上である（上記以外）。
	B ☐	課題あり	項目別評価総括にBが含まれている。
評価内容	令和6年度は、令和5年度より再開した事業を継承しつつ来館される皆さまの更なる満足度を高めるため、具体的には季節ごとのちいさなおはなしの時間スペシャルや大人向けおはなし会、幅広い世代が一緒に楽しめるボードゲーム、さらには地域密着型サービスとして埼玉県立新座総合技術高等学校に次いで、新たに同県立新座高等学校とのコラボレーション企画の実現によって若年層の利用増加につながる事業にも積極的に取組みました。 学級訪問についても中央図書館や読書ボランティアの皆さまと協働し、社会教育のための機関の役割を担いました。 中央公民館図書室主催のイベントや新座団地図書室でのおはなし会をスタートさせ、次年度以降の分館での事業拡大の足掛かりとすることができました。 民間事業者としてのノウハウを活かすため、情報や技術リテラシーを高めるなどの継続的なスキル向上にも努め、全国の指定管理館が実施している事業やサービスに関する情報収集を行い、本社および他館のリソースを活用した事業を企画・実施し、利用者ファーストの図書館運営を推進しました。		
改善策	※ 評価Bの場合のみ記入		

市の評価

総合評価	S	☐	優良	項目別評価総括が全て A 以上であり、S が二つ以上である。
	A	☒	適正	項目別評価総括が全て A 以上である（上記以外）。
	B	☐	課題あり	項目別評価総括に B が含まれている。
評価内容	協定等の水準を満たす管理運営が行われた。			
	令和 6 年度について、概ね当初事業計画及び収支予算のとおり実施、運営された。 1 月に行われたアンケートでは、特にスタッフの対応に対する利用者の満足度が高く、日頃から丁寧な対応に努めている結果と評価する。			
	また、福祉の里図書館の事業については、近隣施設との連携企画やエンディングノート講座、バリアフリー映画会の開催等、様々な利用者に向けたイベントを実施するよう努めている。 令和 6 年度は新たに分館図書室 2 か所でもおはなし会や工作イベントを開催した。今後は業者選定時の提案にあった他分館の「郷土」に関する事業についても実施する等、更に地域や住民とつながる図書館サービスをお願いする。 連絡体制については、毎月の定例会の他、緊急時の即時報告等、指定管理者運営館と中央館の情報共有に努めている。 一方で、一部の備品の購入について、事前に市と協議することなく購入していた。金額の多寡に関わらず、備品の購入の判断は市で行うため、必ず事前協議していただきたい。 また、令和 6 年度の利用者数及び貸出冊数は、福祉の里図書館、分館ともに前年度を下回った。前述のアンケートでも、総合的な満足度において福祉の里図書館では、「満足」、「やや満足」の割合が 4 6 %であった。前年度の 8 9 %と比較して 4 3 ポイント下がっている。 今後とも、利用者及び貸出冊数を増やすための民間ならではの工夫に期待する。			

【市の評価を受けた今後の取組や改善策等】（指定管理者記入）

一部の備品について事前に貴市と協議することなく購入してしまい誠に申し訳ございませんでした。今後は備品の購入等について事前の協議を徹底いたします。

令和 7 年度につきましても、事業の実施並びに予算の執行について計画どおりに遂行することを基本に、より一層の努力を怠らないよう、スタッフ全員で創意工夫を凝らし、福祉の里図書館および分館図書室において地域や住民とつながる図書館サービスに努めます。具体的には新たに老人福祉センターとのコラボレーション企画や福祉の里図書館で実施した事業の分館図書室への展開、地場産業である新座ブックナリー見学、にいが電子図書館の利用促進を目的とした利用者向け説明会等の事業を実施予定です。また利用者数及び貸出冊数増加に向けた取り組みについても計画・実施するよう努めます。

ご指摘の利用者アンケートの総合的な満足度ですが集計結果に誤りがあり、福祉の里図書館の「満足」、「やや満足」の割合は 4 6 %ではなく 9 2 %でした。謹んでお詫び申し上げますとともに、今後はこのような誤りがないよう、慎重に集計するようにいたします。

【過年度の評価結果まとめ】（所管部記入）

評価区分	令和 4 年度 （ 1 年目）	令和 5 年度 （ 2 年目）	令和 6 年度 （ 3 年目）	年度 （ 年目）	年度 （ 年目）
指定管理者の自己評価	A	A	A		
市の評価	A	A	A		